

# 令和4年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

## 音楽

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
1年	○感染症拡大防止対策に連動して、器楽の学習がほとんど実施できていない。	○鍵盤ハーモニカの学習が実施可能となったら、すぐに遅れている内容に着手する。その際は、内容を厳選し、時数と照らし合わせながら全児童が題材の評価規準をクリアできるように計画的に実施していく。	
2年	○器楽の学習予定が大幅にずれ込むのと同時に、児童間の習得状況にばらつきが見られる。	○鍵盤ハーモニカの学習が実施可能となったら、1年次の学習内容を再度扱いながら2年次の学習を並行して進める。児童の現状把握のための見取りの手立てを工夫して設定し、こまかく児童の習得状況を確認しながら全児童の進捗状況を合わせて学習を進められるようにする。	
3年	○器楽の学習が大幅に遅れ、それに伴い、児童間の習得状況に差が見られる。	○文京区版学校感染症対策ガイドラインの範囲内で、学習を進める中で、スモールステップを設定し、全員が題材の評価基準をクリアできるようにするとともに、各児童の状況を見取る手立てを設定する。	
4年	○感染症拡大防止対策に連動して、器楽の学習の内容の定着が不十分である。	○4年生の学習を進めるのと並行して3年生までの学習も復習として扱うことで、全児童が知識や技能を確実に習得できるようにしたり、そのために必要な思考力・判断力・表現力を深められるようにしたりする。また、短時間で児童の現状を把握するための指導の手立てを工夫する。	
5年	○関心が高い児童が多いが、技能面での差が大きい。	○学習に対する積極的な雰囲気を今後も大切にしていく。技能面の課題は、教師が指導するだけでなく、構成メンバーを考えたグループ活動を取り入れるなどして、児童間での教え合いを活用する。	
6年	○落ち着いた雰囲気を取り組めるが、積極性をさらに高めることが課題である。	○グループ活動やペア学習などの少人数での活動を意図的に取り入れることで、各児童の演奏に対するウェイトを上げることで積極性を促す。また、積極的な意識をもてるような、より明確な演奏に対する思いや意図を意識させる。	